

沖縄島北部やんばる及び西表島 「世界自然遺産」の環境保全を目的に寄付を実施

公益財団法人イオン環境財団(理事長:岡田 卓也 イオン株式会社 名誉会長相談役)は、世界自然遺産の登録地である沖縄島北部及び西表島の自然環境保全を目的に、寄付を実施するとともに植樹をはじめとした環境活動に取り組みます。

国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がる沖縄県国頭郡国頭村、大宜味村、東村「やんばる」地域及び国内で自然マングローブ林の最大面積を誇る八重山郡竹富町西表島が、世界自然遺産として推薦された後、同地域の振興活動等を目的に「世界自然遺産推進共同企業体」が発足されました。当財団は、同企業体の趣旨に賛同し、参画して参りました。

本年7月26日、国際連合教育科学文化機関の世界遺産委員会にて、世界自然遺産登録が決定されたことを受け、当財団は、この世界自然遺産保全を目的に寄付等を実施いたします。寄付金の用途は、やんばる及び西表島の樹木の保全や、固有種の保護の他、それぞれの地域の課題への対応を予定しています。また、植樹やビーチクリーン等の活動をはじめ、現在、社会課題となっている漂流軽石の活用を専門機関とともに検討して参ります。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、各地域の皆さまとの連携をさらに強化し、様々な環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

<寄付金の概要>

- 寄 付 先: 沖縄県国頭郡国頭村、大宜味村、東村、八重山郡竹富町
寄 付 額: 合計 4千万円
寄付金用途: ・亜熱帯照葉樹林の保全
・「ヤンバルクイナ」「ノグチゲラ」等の固有種の保護
・世界自然遺産保全に関わる事項

<沖縄の課題解決への取り組み>

- ・漂流軽石の活用
 - ・ビーチクリーン
 - ・植樹
 - ・環境保全に関する活動等
- 協 力: イオン琉球株式会社

以上

ご参考

■公益財団法人イオン環境財団について

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立されました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており、現在は「イオンの森づくり」「助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4事業を中心にステークホルダーの皆さまとともに環境活動に取り組んでいます。

＜公益財団法人イオン環境財団ホームページ： <http://www.aeon.info/ef/> ＞

■イオンの森づくり

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでの31年間、世界11カ国で植樹を行い、イオンの累計植樹本数は1,223万本を越えました（2021年2月末現在）。

＜沖縄県における環境活動＞

2007年～2009年 那覇市植樹

那覇市南風原町のクリーンセンター施設の一帯は、戦時中焼け野原となり、一画がゴミ処理場として利用されていましたが、その役目も終わり、地域の皆さまの憩いの場として生まれ変わるための「緑化推進」が計画されました。当財団はそれに賛同し、植樹を行いました。3年間にわたり約3,500名のボランティアの皆さまとともに30,000本を植樹しました。



2017年 糸満市植樹

糸満市にある平和祈念公園には、沖縄戦の写真や遺品を展示した平和記念資料館をはじめ、平和の礎や慰霊塔があり、国内外から多くの方が訪れ、平和を願う象徴的な場所となっています。当財団は、同公園が緑に囲まれて、皆さまにとっていっそう親しまれる場になることを願い、500名のボランティアの皆さまとともに、5,300本の植樹を行いました。



2018年 宜野湾市植樹

沖縄戦の戦跡で、平和学習の場となっている宜野湾市の嘉数高台公園は、市民の方々の憩いの場として利用されています。より多くの方が訪れるさくらの名所にしたいと願い300名のボランティアの皆さまとともに、1,000本のさくらを植樹しました。



苗木の里親プロジェクト

当財団は、社会も生活も大きく変わった2020年に「苗木の里親プロジェクト」を開始し、これまでに森づくりにとともに取り組んできた地域ボランティアの皆さまに苗木をお預けしました。1年間自宅や学校等で育てて頂いた後、その苗木を全国の「イオンの森」に植樹しました。

沖縄県では、首里城復興支援の一環として、里親の皆さまに首里城の復元に必要となる「イヌマキ」の苗木を育てて頂いており2022年春頃に内国頭辺野喜ダム周辺にて植樹する予定です。首里城修復・保全に向けて、原材料となるイヌマキの森を育成し、100年後も首里城が輝く文化財であるよう支援します。

